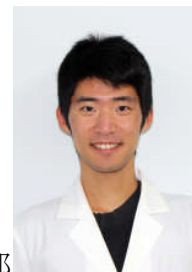


和歌山病院での実習を終えて



濱川 健太郎

呼吸器内科の臨床実習の一環として、和歌山病院で実習をさせていただきました。駿田副院長から結核の感染についての講義を受けた後、実際に N95 マスクを着用して、結核病棟に案内していただきました。大学の講義や教科書で陰圧管理などについてなんとなく知っていましたが、実際に自分の目で病棟を見ることで、生きた知識となりました。N95 マスクを着けてみると、自分が思っていた以上に息苦しかったのが印象的でした。翌日の結核の診断や治療についての講義では、結核という疾患について理解を深めることができました。

南方院長からは、レントゲンを読影する方法について教えていただきました。南方先生は、レントゲンの原理から論理的に、非常に丁寧に説明して下さいました。今までレントゲンに対して何となく苦手意識を持っていて、ポリクリでもレントゲン写真を避けていました。しかし、南方先生のセミナーを受けて苦手意識が薄れ、これからは積極的にレントゲン写真を読影していこうと思いました。また、ブロンコ体操のセミナーでは、肺区域を覚えようとせずとも勝手に体に染み込んでいくような感覚で覚えることができました。そこから、疾患が肺のどの区域に好発するかについて、理解することができました。南方先生のセミナーを受けて、闇雲に知識を暗記するのではなく、きちんと理屈を理解して覚えていくことの大切さを痛感しました。

夜は南方院長に晩御飯に連れて行っていただきました。御坊の土地に関する言い伝えなど興味深いお話を聞かせていただき、とても楽しい時間でした。宮子姫は僕の地元ともゆかりが深く、御坊という土地に親近感がわきました。

今回は2日間という短い期間でしたが、非常に密度の濃い、有意義に実習となりました。南方院長、駿田副院長をはじめとする和歌山病院の先生方、職員の方々、お世話になりありがとうございました。